

# Press Release



8. 6. 25  
栽培資源研究所

## 令和8年度シロアマダイ稚魚の放流について

栽培資源研究所では、新規放流対象魚種としてシロアマダイの種苗生産の技術開発に取り組んでおり、この度、放流用シロアマダイ稚魚の生産に成功しました。ついては、次のとおり生産した稚魚の放流を行いますので、お知らせいたします。

### 記

- 1 日時 令和8年6月29日（月）11:00～（天候等により予定変更の可能性あります）
- 2 場所 愛媛県西宇和郡伊方町九丁（くちょう）漁港
- 3 その他 上記放流は、関係漁業者（八西地区はえなわ協議会）とともに実施いたします。なお、当日は、栽培資源研究所からトラックでシロアマダイ稚魚を現地まで運び、トラックの水槽から沿岸海面へ、海水とともにホースで放流することを予定しています。また、標識放流分として、別途、バケツで放流する予定です。

### ●シロアマダイ種苗生産技術開発の概要

今年度は4月上旬から、県内海域で採捕したシロアマダイ親魚を用いて、当所で種苗生産を行い、6月29日にシロアマダイ稚魚を八西地区沿岸各所において放流予定。なお、シロアマダイ種苗生産技術開発については別添資料（26 超高級魚シロアマダイー大産地化プロジェクト事業費）のとおり。

【お問い合わせ先】 農林水産研究所水産研究センター栽培資源研究所

TEL : 089-983-5378、FAX : 089-983-5570

MAIL : saibaishigen-ken@pref. ehime. lg. jp

担当者 : 増殖技術室長 小田原 和史

大変お手数ではございますが、ご取材いただける方につきましては、6月26日（金）17時までに、別紙取材申込書（メール又は FAX）にてお申込みいただき、当日の取材は現地参集をお願いいたします。

愛媛県栽培資源研究所 行

FAX 089-983-5570

MAIL saibaishigen-ken@pref.ehime.lg.jp

取材申込票

令和8年度シロアマダイ稚魚の放流

- 1 日時 令和8年6月29日(月) 11:00～
- 2 場所 愛媛県西宇和郡伊方町九丁(くちょう) 漁港内

貴社名	
お名前	
ご連絡先 (電話)	
備考	

\*大変恐縮ですが、6月26日(金) 17時までにご連絡いただきますよう、お願い申し上げます。

# 26 超高級魚シロアマダイ一大産地化プロジェクト事業費

令和8年度当初予算（案）  
 予算額 7,139千円

全国的に漁獲量が極めて少なく超高級魚であるシロアマダイの種苗生産技術を確立して、放流用種苗の量産体制を構築するとともに、放流技術の開発や漁業者と一体となった資源管理により、シロアマダイの一大産地を目指す。

お問い合わせ先  
 農林水産部水産局  
 水産課  
 (089-912-2615)

指標	施策	17 農林水産業の生産振興 <b>KGI</b> 漁業産出額	現状値	1,086億円 (R5年)
	細施策	17-7 漁業の生産振興 <b>KGI</b> 漁業生産量	現状値	137千t (R6年度)
			目標値	900億円 (R8年)
			目標値	143千t (R8年度)

**事業イメージ** **KPI** 栽培資源研究所におけるシロアマダイ人工種苗の生産尾数 (先行事例のキジハタと同じ種苗生産尾数10万尾を目指す上での目標値)

現状値 - 目標値 1万尾(R8年度)

**【現状（漁船漁業）】**

漁船漁業産出額 魚価単価 (円/kg)

R4 : 186億円 ※S59 : 615億円  
 R4 : 約300円/kg ※H7 : 約530円/kg

**（現場ニーズ）**  
 定着性が高く、高値で取引される魚種の資源の増大・維持

**有望！シロアマダイ**

- 価格帯：高単価 平均4,810円/kg(R5) 最大50,000円/kg
- 漁獲実績：23～42t/年 アマダイ類、R元以降、愛媛県
- 需要：京都のぐじ料理など高級料亭の食材

**【優良事例：キジハタ】**  
 松山市公設水産地方卸売市場における取扱量の推移

取扱量(t) 放流尾数(万尾)

●目標設定  
 ・生産尾数10万尾/年  
 R7:1万尾、R8: 1万尾  
 R9:5万尾  
 R10以降:10万尾  
 ・漁獲量50t/年  
 現状の約25tからの倍増

**【課題】**

- 資源の増大・維持 ⇒ 人為的な資源添加・管理 優良事例：キジハタの種苗放流により漁獲量の増大・維持
- 放流用の種苗の確保 ⇒ 愛媛県での生産実績なし

**【対策】**

- 放流用の人工種苗を漁場へ安定的に供給する体制の整備
- 効果的な種苗放流のための放流技術などの開発
- 資源添加効果を持続するための資源管理手法の開発

生産・量産技術      放流・管理技術

**本県をシロアマダイの一大産地に！**

**事業概要**

1 受精卵確保技術の開発 1,596千円

(1)天然親魚による自然産卵手法の開発

- ①船上採卵技術の開発
- ②受精卵移送技術の開発

(2)天然親魚による人工授精手法の開発

- ①親魚（活魚）の移送技術の開発
- ②親魚養成技術の開発

実施機関：栽培資源研究所

2 種苗生産技術の開発 4,639千円

- (1)適正な飼育環境の検討 飼育に適した水質、照度、飼育密度等を検討する。
- (2)生物餌料の適正給餌の検討 種類、給餌量、給餌時期等を検討する。
- (3)配合飼料への切替方法の検討 種類、粒形、切替時期等を検討する。
- (4)疾病対策・選別手法の検討

種苗生産から放流まで

- ①天然親魚の確保
- ②受精卵の確保・ふ化など
- ③放流

3 放流技術の開発 904千円

- (1)生態（成長・成熟など）・生息域の調査
- (2)放流場所の検討 (1)の調査結果をもとに放流適地を検討するほか、標識放流により放流効果を検討する。
- (3)輸送密度・放流手法の検討 輸送時の密度や水温などを検討するほか、海面・海底放流等を検討し、効果的な放流方法を開発する。